

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第24号（カンキツのカイガラムシ類の冬期防除対策）について（送付）

下記のとおりカンキツのカイガラムシ類について取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/index.html>）にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第24号

露地栽培のカンキツでは、11月のカイガラムシ類の発生ほ場率が過去10年間で最も高くなっています。収穫後の冬期防除対策として、発生園では越冬虫数を減らすために、2月までに冬期用マシン油乳剤（95%）による防除に努めてください。

- 1 対象病害虫 カンキツのカイガラムシ類
- 2 対象作物 カンキツ
- 3 対象地域 県本土・熊毛地域
- 4 発生状況

- (1) 11月の調査では、発生ほ場率は16%（前年10%、平年3%）と過去10年間の中で最も高く中発生ほ場（被害果率6～20%）が認められた。主要品種はアカマルカイガラムシであった。また、寄生果率も0.9%（前年0.9%、平年0.2%）と前年と同様に高い（図1、図2）。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 越冬した成虫・幼虫が翌年の発生源になるため、発生園では越冬時期を逃さないように、冬季用マシン油乳剤（95%）の散布等、適期防除に努める。
- (2) 樹冠の頂部や裾部、枝葉の混み合った部分に発生が多いので、農薬を散布する際は、薬液が十分かかるようにする。
- (3) 防除にあたっては、農薬の希釈倍数や使用時期を遵守し、飛散には十分注意する。
- (4) なお、樹勢が弱っている樹では薬害発生の恐れがあるので、マシン油乳剤の散布を避ける。

6 参考データ

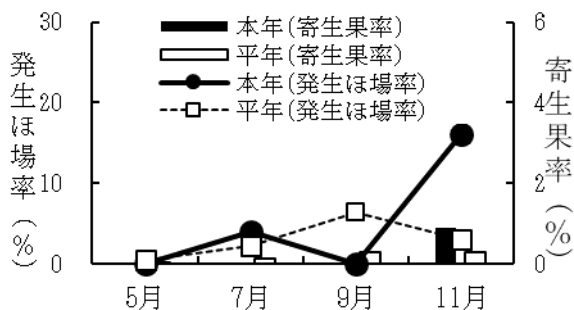


図1 カイガラムシ類の発生ほ場率と寄生果率の推移（R7：県本土・熊毛）

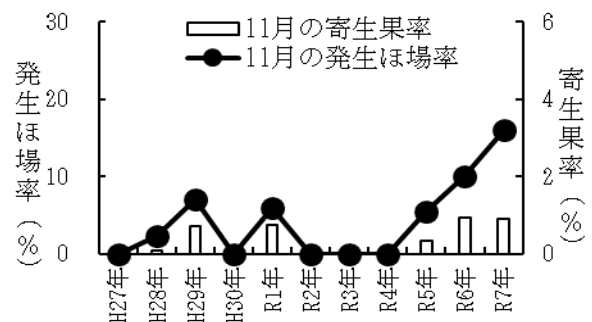


図2 年次別のカイガラムシ類の発生ほ場率と寄生果率の推移（県本土・熊毛）